

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	社会科の役割を検討する「道德教育の研究」の研究 —「道德の教科化」へ向けた道德資料の目録化を中心に—
------	---

研究代表者

氏名 井ノ口 哲也	所属 人文社会科学系人文科学講座	職名 准教授
--------------	---------------------	-----------

研究分担者

氏名 赤間 祐介	所属 人文社会科学系社会科学講座	職名 講師
-------------	---------------------	----------

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究は、社会科教室所属の「道德教育の研究」授業担当者である井ノ口と赤間が、社会科の視点から半世紀にわたる本学の「道德教育の研究」の変遷を回顧したうえで、将来の「道德の教科化」に向けて、これからの道德教育に対して社会科の果たすべき役割を検討し提言することを目的として、開始された。

過去半世紀にわたる本学の「道德教育の研究」の変遷を回顧する際に極めて重要な資料となるのが、哲学・倫理学分野に未整理のまま収蔵されている、歴代の「道德教育の研究」担当者が収集した道德教育関係の書籍群や全国各地の小・中学校における道德教育の実践報告書である。これらの資料は、これまで本学で行われてきた道德教育に関するプロジェクトにおいて採りあげられることがなかったものであり、そのほとんどが本学附属図書館の蔵書目録に登録されていない(つまりOPACで検索しても辿り着かない)研究室所蔵の資料であり、他大学に無いかかなり貴重な資料も相当数含まれている。こうした事情から、今後の道德教育の指導に資するべく、本研究を通じて、これらの資料が初めて整理されることになり、研究組織における統一的管理体制の構築と資料の活用方法を検討することになったのである。

まず、これらを整理してその書誌情報を何らかの形で公開することを目指し、アルバイト学生2名を雇用してパソコンで1点ごとの書誌情報を入力してもらい、資料目録のための基礎データを構築することができた。これに加えて、現在の「道德教育の研究」授業担当者である井ノ口と赤間が常日頃参照し保管している道德教育関係の資料についても、書誌情報を入力することができた。ここに至って、哲学・倫理学分野の資料のみならず、法学・政治学分野が所蔵する道德教育関係資料も、今回の整理の対象とされたのである。こうして、のべ62時間を費やして書誌情報が入力された道德教育関係資料は、1,764点(75cm幅の棚で30棚分)にのぼる。これらの書誌情報は、未整理資料の書誌情報を加えたうえで、さらに緻密な検証を経た後にデータベース化し、ウェブ上で公開することを考えている。

その一方で、整理の過程で、経年劣化の激しい資料が少なからずあることが判明し、その適切な保管体制と活用方法の検討が今後の看過できない重要な課題として新たに浮上した。これら経年劣化の激しい資料は今もなお未整理の状態にあり、約100点(75cm幅の棚で2棚分)ある。そこで、スキャニングやコピーの作成を経たうえでの補修や製本作業を適切に進めるべく、これらの資料を取める保管庫を井ノ口の個人研究室に設置した。また、スクラップブックを購入し、散佚が懸念される学習指導案や発表レジュメ等の一枚文書の保存や、平成30年度から実施される「道德の教科化」に関する記事の整理に役立てることとした。

配分された研究費に限りがあり、その予算の範囲内で、本研究は、データベース化のための資料整理と書誌情報の入力作業を遂げることはできた。しかし、本研究課題の申請段階で計画されていた、他大学で展開されている「道德教育の研究」に関する調査活動や、過去半世紀の資料に関する社会科の視点からの活用方法の具体的検討、そしてその調査活動の記録や検討結果をまとめる予定であった研究報告書の刊行は、今回見送らざるを得なかった。これらは、今後実現の機会を持ちたいと考えている。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]  
**※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。  
 なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。**

本研究による研究成果としては、今後、資料目録のデータベースが完成した際に、ウェブ上で公開することを考えている。